

研修報告書 No 50

研修施設：大月町立国民健康保険大月病院
宿毛市立沖の島へき地診療所
所 属：東邦大学医療センター大森病院 研修医

私は高知県の西南端にある大月町の大月町国民健康保険大月病院と宿毛市立沖の島へき地診療所で約 1 か月間の研修をさせて頂きました。まず、最初にこのような大変貴重な機会を与えて下さった高知医療再生機構の皆様方、本当にいつも良くして下さいました先生方・看護師さん、コメディカルの皆様方に御礼申し上げます。

私は普段東京にある 1000 床程の規模の大学病院で、医師も数百人いる病院で研修しており、大月病院での研修は未知の経験ばかりでした。少人数体制での内科・外科関係のない診療、20-30 人程度の入院患者ほとんどの方が後期高齢者または超高齢者、素晴らしい風景のある各地域への往診、看護師さん方の愛情のこもった昼の手作り料理、などなど普段とはまったく違った実りあるたくさんの経験ができました。

ただ、このような経験をさせて頂きたく中で、いくつか感じる事や考えさせられる事もありました。

例えば、眼科に限った事ではないですが、眼科を診療できる医師は大月町にはおらず、おそらく糖尿病患者さんの合併症である網膜症などの治療介入がほぼ全くないのが現状で、こういった専門的な総合医ではカバーする事が難しい診療分野では、医療の質を保つことが難しいと思いました。対策として定期的な眼科医の外来または往診などが月数回あるだけでも違うのではないかと思いましたが、なかなか難しいのが実際のところだとは思いません。最近よく言われる老老介護のケースが、大月でも特に往診で診ている患者さんに非常に多く、そういった移動が困難な患者さんに特に専門医の定期的な往診の必要性を感じました。

また、大月病院での平日、日中の研修中に完全房室ブロックによる徐脈の患者さんが救急搬送され、一番近い総合病院である幡多けんみん病院への転送に常勤の先生と同乗させて頂く機会がありました。一番近くの総合病院に転送するのに救急車で 40 分弱程度の時間がかかりました。もし、心肺停止の状態になった患者であれば蘇生はかなり難しいと感じました。こうした点においても不利だという事を感じざるを得ませんでした。MRI が無く、急性期の脳梗塞患者さんも初期治療無く皆 40 分かけて転送するしかないという点もそう感じざるを得ませんでした。

ただ、こうした点はあるながらも、多くの先生方が皆一人ひとりの患者さんを丁寧に温かく診療されているのがとても印象的で、最新の医療知識に関してもインターネットなどを利用して、論文の収集を行ったり、オンラインの勉強会に参加されたりと熱心に勉強さ

れており、地域医療といっても医療の質というのはそう変わらないのではないかというのが総じた感想です。

以上研修の御報告とさせていただきます。
貴重な経験を誠にありがとうございました。